

太田 茂 (Shigeru OHTA)

日本薬学会会頭 (President of The Pharmaceutical Society of Japan)

昨年の年会において日本薬学会が取り組むべき課題として以下の数点を挙げた。

- 1) 次世代を担う会員に対する支援、2) 学術誌の活性化、3) 学会の国際化、4) 会員増強、である。
まず 1) 次世代を担う会員に対する支援に関しては、27 年度から長井記念薬学研究奨励支援事業が実施されており、博士課程及び博士後期課程の学生を対象にした本支援によって博士課程進学を奨励する目的はある程度達せられていると思われる。本事業は継続して行う事が何よりも重要であると考えている。若手研究者に対する支援に関しては各部会、各支部会において積極的に行って頂いているが、日本薬学会の奨励賞等についてもより多くの優秀な若手研究者に支援出来るように考えていきたい。
- 2) 学術誌の活性化に関しては、Chem. Pharm. Bull.、Bio. Pharm. Bull.の英文誌 2 誌についてホームページの作成を現在行っており、推奨論文を提示する等興味を持って論文を読んで頂けるように工夫をしているところである。また薬学雑誌については一部英語論文も掲載することとし、医療系分野や薬学教育の分野の領域もカバーするよう投稿規定の変更等を行っている。またファルマシアに関しては薬学会員限定で Web 上においても閲覧出来るように改善している。
- 3) 学会の国際化に関しては、国際薬学連合 (FIP) やドイツ薬学会、韓国薬学会、米国薬学会との連携を通して行っている。また昨年度年会から行っている理事会企画の国際シンポジウムは英語のみで行っており、本年会においても実施している。このように英語のみで行うシンポジウムを徐々に浸透させていくことで国際化を語り、海外からの参加者にも開かれた年会にしていきたいと考えている。
- 4) 会員増強については、現状においても減少が認められているので大学、研究機関、医療機関、企業、行政等幅広い会員獲得に向けて継続的に取り組んでいかなければならないと考えている。
講演においては日本薬学会の現状と展望について、具体的なデータを示しながら話をしたい。